

八ヶ岳西面 中山尾根

L : 坂野、大山

1 2月23日（晴れ／曇り）

正月山行に向けてのトレーニングだったが、自分には三つの不安があった。一つ目は天気、二つ目はルートに対する自分の技術、三つ目は美濃戸までの林道。一つ目と二つ目はリンクしていて、7年前にこのルートを辿って1箇所自力で抜けられなかった所があり敗北感を持っていた。そんなルートに微妙な天気予報のなか向かうことへの不安だった。三つ目は、最近買い替えた四駆の車で果たして本当に美濃戸まで入ることができるのだろうかという不安である。

出発の夜、集合場所に行ってどん引き。リーダー坂野が風邪をひいたとかで声も変だし鼻もぐずぐずになっている。ええっ！？この時期に！？という思いだったが取りあえず大丈夫というので出発。しかし1月前に風邪をひいて結構長引いた経験があるだけに「風邪、もらいやすいんだよね〜」「前に職場の健康講話でくしゃみのしぶきの飛び散るすごい写真見てさ〜」など、遠回しに気持ちを伝えると、途中のコンビニでマスクを購入してくれた。

美濃戸口に着き、そのまま林道に入る勇気がなく車中で仮眠する。三連休だし、テント泊の人たちと行動がかぶっても行動しにくいので5時まで仮眠。その後、林道の雪が少なそうなので美濃戸まで行くことにした。初めて自車でこの林道を行けて感動だが、楽しんでいることに少し後ろめたさも覚える。美濃戸は三連休の中日だけあってほぼ満車だった。



天気は意外に良く、行者小屋まで2ピッチ。中山乗越からもトレースがあり辿って行くが、体調不良のリーダー坂野に間を空けられる。

下部岩壁の見えるところまで来ると、取り付いている3チームくらいが目に入り、少し手前で支度をしながら待つ。ここでアクシデント発生。リーダー坂野のピッケルが斜面を谷の方へ滑り落ちて行った。上からは見えなかったが、リーダー坂野が下りて行き、途中で引っかかっていたのを回収して事なきを得る。「今度から身体から離さないようにします」とのひと言。そういえば雪面に刺すでもなく無造作に置いてあったね…



先行チームが全部1ピッチ分登ったところで取付に移動する。出だし、ルートガイドでは
右に下りて凹角を登るとあったが、正面の壁が登れそうだったのでトライする。しかし
意外に登りにくくてリーダー坂野に交代。しかしリーダー坂野も抜けられず、ガイド通
りに登って行ったがそちらも意外に苦戦している様子。自分には下部岩壁の記憶がまっ
たく抜けていたのであれっ？という感じだった。

セカンドでスタート。たしかに傾斜も立っていて前回は4月だったとしてもこんなに大
変
だった印象はない。後退しているなあ~と思う。2ピッチ目、そのままつるべで登って
行
く。記憶はないけど、前回はここをリードしたらしい。凹角は特に難しくなかったが、
抜け
のところが広がっていて手がなく、2手A0してずり上がる。ここでも後退を実感。階
段
状の草付を上がったところでピッチを切る。

雪稜まで出てしまえばよかったのだが、ピッチを切ったところから雪稜に上がる箇所がちょっといやな感じだったので、ロープなしで行こうとするリーダー坂野を引き止めて短
いピッチだったがロープを出す。

雪稜に出たところで一旦ロープ回収。先を行くリーダー坂野を追ううちに、まじっ！？
と
思う。さっきの階段状とは明らかに違う傾斜のある草付にロープも出さずに取り付いているではないか。



仕方なく自分も取り付くが、やばいやばいと思いながら、ピックを打ち込んで必死に登る。
こっちの様子をみてロープを出そうとしているリーダー坂野が目に入ったが、紙一重で何
とか登りきる。冬山の岩稜でこんなことになっては大変なので苦情を申し入れる。

そこからすぐ上部岩壁の取付だった。この1ピッチ目の抜けが前回からの課題だ。

リーダー坂野がスタート。順調にロープが出て行く。そのうちロープが止まり、抜けの所かな思っていると岩の上からリーダー坂野の片足が見えた。しばらくそのまま動きがなく、面白い画だなと思ったけど、ビレイしているので写真は撮れなかった。

セカンドスタート。ほとんど垂直に思えるような凹角を登る。



そして課題の抜けの部分。被り気味で突破不可能のように思えたが、セカンドだし思い切って取り付く。が、あえなくA0。そしてテンションもらって少しレストしてから何とか抜けた。今回はここまで酷くなく、三度後退を実感。



そこから雪稜に出てピッチを切り、リーダー坂野がもう1ピッチ。最後の岩場の手前でピッチを切ったようだ。前回、その岩場をセカンドで登り、手袋を取って素手で登ったのを覚えている。ここまで上がると風も出てきて空は曇り、雪も混じってきた。さすがに素手は無理。とりあえず岩に取り付くが、ほしい所にプロテクションが取れず思い切っ
て上がれない。

上がったたり下りたりを4、5回繰り返してうろうろ。リーダー坂野が代わってくれる気配はない。風邪っぴきをいつまでも風にさらさせるわけにもいかず、手を伸ばしてガバを探し
思い切って身体を上げる。そこから岩稜を少し歩いてピッチを切る。最後はロープなしで
縦走路までトラバースして終了。

今回も中山尾根には跳ね返された。



雪の降る中を地藏尾根から行者に下り、美濃戸までの途中でヘッドライトを出す。残業になると美濃戸まで車が入っていることが有難い。注意しながら林道を下り、温泉へGO！

温泉を出る頃、とっくに下山してると思った阿弥陀の南稜チームに会ってびっくりした。

(タイム)

6：21 美濃戸～8：29行者小屋～10：30下部岩壁取付～12：10下部岩壁終了～13：06上部岩壁取付～15：03上部岩壁終了～16：02行者小屋～17：37美濃戸